


<h1>指導資料</h1>	<h2>特別支援教育 第187号</h2>	
	対象校種	幼稚園 <input type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/>
 鹿児島県総合教育センター 平成28年10月発行		

学習集団に応じた単元・題材指導計画の作成 — 知的障害教育における指導内容の選択・組織を踏まえて —

知的障害教育における教科別の指導では、一人一人の実態差が大きいため、全体指導計画だけでなく、個々の実態に即し、学習集団に応じた単元・題材指導計画を作成することが必要である。中学部国語科の題材指導計画を例に、全体指導計画を学習集団の実態に応じた単元・題材指導計画として作成する際のポイントを紹介する。

1 はじめに

知的障害者である児童生徒を教育する特別支援学校では、自立と社会参加を目指し、全体指導計画としての年間や単元・題材指導計画に「何を学ぶのか」を示している。児童生徒一人一人は、発達の段階や認知の特性、学習上の困難さなどにより、学習の習得状況にばらつきがある。したがって、「各教科等の目標及び内容の系統性はどのような状況か」、「どのような指導や支援が新たな学びや活用につながるか」を捉え、指導内容の選択・組織を行い、学習集団の単元・題材指導計画を作成する。しかし、その作成方法や手順が、教師にとって分かりにくいという課題がある。

2 指導内容の選択・組織

全体指導計画の単元・題材の指導内容は、

学習指導要領の内容から選択・組織する。内容は大まかな段階別に示されており、学習集団の一人一人の実態差が大きい場合、教師にとって具体的な指導内容をイメージしにくい。学習集団の単元・題材指導計画の作成は、一人一人の実態に応じて具体的に指導内容を整理し、学習集団の実態を明確にして指導内容を選択・組織することが必要である。当センターでは、身に付けるべき具体的な指導内容を「特別支援学校（知的障害）における具体的な内容の例」（試案）として、小学部3段階、中学部1段階、高等部2段階で、各教科の内容ごとに作成した（図1）。この内容の例に基づいて指導内容を選択・組織し、具体的な指導計画を作成できる。例えば、学習指導要領の中学部国語「（4）書く」の内容は、「簡単な手紙や日記などの内容を順序立てて書く」と記されているが、「見聞きした

ことや経験ことなどについて、できるだけ順序立てて書く」や「簡単な手紙や日記を書く」などの13項目で具体的に示した。

中学部 1 段階			
(1) 聞く	(2) 話す	(3) 読む	(4) 書く
1 教師などの説明や友達の話などを聞いて、およその内容が分かる。	1 自分の気持ちや意思、意見や要望、人への伝言などを、感情や状態や動作を表す言葉を使って話す。	1 やさしい物語文を読み、およその内容をつかむ。 2 自然の美しさや季節などを表す詩や俳句を読む。	1 見聞きしたことや経験したことなどについて、できるだけ順序立てて書く。
2 物語、劇映画、テレビなどを見たり聞いたりして楽しみ、簡単な感想を話す。	2 事柄の順序をたどって、見聞きしたことや経験したことを話す。	3 短い劇の脚本を読んだり、演じたりして事柄の流れや登場人物の心情が分かる。	2 簡単な手紙や日記を書く。 3 年賀状や暑中舞い、旅先からの絵はがきを書く。
3 簡単な放送や録音などの内容の概略を聞き取ることができる。	3 人に尋ねられたときは、はっきり応答する。	4 国語辞典に関する	4 体験したことなどの報告、連絡ノート、観察日記、社会見学の記事などを書く。
4 簡単なメモを取りながら聞いたり、分からない	4 学級会、生徒会などで、自分		

図 1 国語の具体的な内容の例（抜粋）

中学部1段階の「(4) 書く」の1項目目は、**中1(4) - 1**と表して使う。

3 指導内容の選択・組織の手順

指導内容を選択・組織し、学習集団の実態に応じた単元・題材指導計画を作成する際、以下のことに留意する。

- 指導内容を明確に位置付ける。
- 発達上の課題と生活上の課題という両方の視点を踏まえる。
- 教える内容や順序を授業時数に応じて整理する。
- 学びが生起しやすい学習活動を設定する。

(1) 学習集団の実態把握

- ① 当センター作成の「国語、算数・数学チェックリスト」による実態把握がある。発達の段階や学習の履歴から身に付けてほしい力を確認できる。

国語	個人内の差																													
	0~1歳					1~2歳					2~3歳					3~4歳					4~5歳									
領域	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
聞く	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
話す	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
読む	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
書く	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

図 2 チェックリストによる実態把握の例

図 2 は、チェックリストの結果をまと

めた例で、国語における個人の発達の段階や既習の状況を概観できる。「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」において、3歳から5歳以後の内容が学習上の課題として考えられる。

② 個別の教育支援計画や指導計画、日常生活から、現在や将来の生活のために身に付けさせたい力を確認する。

③ 具体的な内容の例から学習集団の一人一人が学ぶべき指導内容を選択する。

(2) 単元・題材指導計画への反映

選択した指導内容を単元・題材指導計画に位置付け、学習活動を計画する。

4 実践例

これまで述べた手順で、A特別支援学校 中学部国語科の「文章の作り方を学ぼう」の学習集団用の題材指導計画を作成した。まず、生徒3人の日常会話の実態には、主語が抜ける、事柄の順序が整わない、意図がうまく伝わらないなどの特徴があった。それぞれの個別の指導計画には、伝え合う力を高めることが示されている。また、「国語、算数・数学チェックリスト」による実態把握では、5~6歳や小学校1年生段階の○で囲んだ箇所に空欄や△の付いた項目がある(図3)。発達の段階や学習の系統性からは、その段階の指導が必要である。しかし、現在の生活で必要な力として、小学校2年生段階の主語や述語の関係、見聞きした事柄の順序に気を付けて話したり、書いたりするという指導内容を選択した。経験したことを整理して書くことや発表することを通して、主語や述語、事柄の順序

に気を付けて話すということを学習し、日常生活に生かすことができると考え、全体

指導計画の題材指導計画（図4）を基に学習集団の題材指導計画を作成した（図5）。

		5～6歳					小1年					小2年				
A児	聞く	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	話す	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	読む	△	○	○	△	○	○	△	○	△	○	○	△	△	○	△
	書く	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
B児	聞く	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	話す	△	△			△	○	○	△			○	△			-
	読む	○	○	○	△	○	○		○	○	△					
	書く	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△				
C児	聞く	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	-
	話す	△					○	○	△			○				-
	読む	△			○	○	○	○	○			○	○	○	○	
	書く	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	

事柄の順序を考え、整理して話す。

見聞きしたこと、経験したことについて順序を整理して文章を書く。

主述の関係、修飾や被修飾の関係に注意して書く。

助詞を正しく使い、指示語や接続語の役割を理解して書く。

図3 3人のチェックリストの抜粋

中学部	題材名	文章の書き方を学ぼう		時数	16時間
	学習活動	学習内容例	指導上の留意点		教材・教具
	1 簡単な語句を読んで、書く。	○ 人や物の名前と、動作の名前、学年やクラス、時間や事柄の順序(メモ、日付と曜日)等を読む。	・ 写真やイラスト等を見て人や物の名前等の名詞や動詞を読めるようにする。 ・ 実態に応じて文字カード等を使い、教師と一緒に読むようにする。		小3(3)-5
	2 二語文や多語文を書く。	○ 簡単な語句を用い、二語文や多語文を書く。 ○ 助詞「は・を・へ」の読み方や使い方を知る。	・ 書きたいことを言葉に出し、教師と一緒に文章を考えて書くようにする。 ・ 「は・を・へ」と「わ・お・え」の読み方に気付かせる。		中1(4)-2 中1(4)-10

図4 「文章の書き方を学ぼう」題材指導計画の抜粋

図4の全体指導計画を基に、生徒たちの実態に応じて指導内容を選択し、学習活動・内容を図5のように組織した。学習活動の1と2については、以下のような考えで選択・組織を行った。

- **小3(3)-5**は、「教師や友達の名前を読む」である。生徒たちは、そのような簡単な語句については既に習得しており、語彙や生徒同士の会話の話題を増やすことをねらい、「ことわざや四字熟語などの言葉遊び」(**中1(2)-12**)と「新聞や雑誌などを見たり読んだりすることに興味をもつ」(**中1(3)-9**)を選択した。
- **中1(4)-2**は、「簡単な手紙や日記を書く」である。生徒たちは、簡単な文は書けるが、主語や述語、修飾語などを整えて文章を書くことや話すことに課題があるため、「文中の主語と述語の関係に注意して書く」(**中1(4)-7**)や「必要な事柄、事柄の前後、時間的な流れや文章全体のバランスなどを押さえて書く」(**中1(4)-6**)を選択した。

中学部	題材名	文章の書き方を学ぼう		時数	16時間
	学習活動	学習内容	指導上の留意点		教材・教具
	1 簡単な語句を読んで、書く。	○ 四字熟語や慣用句、詩や早口言葉などの漢字を読んだり、書いたりする。	・ 四字熟語カードなどで名詞や動詞を示して読めるようにする。 ・ 実態に応じて文字カード等を使い、教師と一緒に書けるようにする。		中1(2)-12
	2 多語文を書く。	○ 見聞きしたことや経験したことについて、できるだけ順序立てて書く。 ○ 「誰が、いつ、どこで、何を、どうした」などの文の構成に従い文章を書く。	・ 主語や述語、修飾語等の関係に気を付けて書けるように、文の構成を確認するようにする。 ・ 「は・を・へ」と「わ・お・え」の使い方を確認して、区別して書けるようにする。		中1(4)-6 中1(4)-7 中1(4)-10

図5 学習集団の「文章の書き方を学ぼう」題材指導計画の抜粋

ここでは、「文章の書き方を学ぼう」の全体指導計画にあった小学部2段階や3段階の複数の内容や中学部1段階の一部の内容を選択しなかったのは、本学習集団の生徒たちにとって、既に習得した内容のためである。また、全体指導計画には含まれていなかったが、現在、日常生活で生徒たちの課題となっていることを本題材で学んでほしいと考え、具体的な内容の例から**中1(2)-2**（事柄の順序をたどって、聞き取ったことや経験したことを話す）などを新たに選択して、指導計画を作成した。

実際の指導では、夏休みの体験について、「いつ」、「どこで」、「誰が」、「何を」、「どうした」という文の組立てを確認しながら、主語や述語、事柄の順序を整えて作文した**(写真)**。この作文の学習を進めるに従い、国語の時間だけでなく、生活単元学習の感想文や生活の記録など

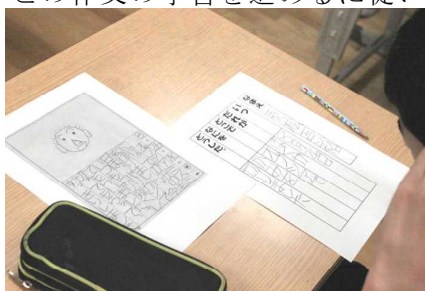


写真 体験文の作文

でも、構成に気を付けて文章を書けるようになった。また、日常生活においては、教師が「いつ」、「どこで」、「誰が」、「何を」、「どうした」という組立てに従った会話を促すと、生徒は次第に主語を省かず、事柄の順序を考えて話す姿が見られるようになった。

5 終わりに

各特別支援学校で学習集団に応じた単元・題材指導計画を作成する際は、全体指導計画として示されている単元・題材指導

計画に、どのような指導内容が位置付けられているのか、学習指導要領や具体的な内容の例を用いて確認することが必要である。それと共に、指導する学習集団の児童生徒の実態を把握して、必要な指導内容を選択・組織していくことになる。

児童生徒一人一人の実態を把握する際、実践例では、「国語、算数・数学チェックリスト」を用いた。これにより、「特別支援学校（知的障害）における具体的な内容の例」（試案）で、一人一人がこれまでに習得した内容や、これから学習すべき内容を把握することができる。また、発達の段階や現在又は将来の生活において身に付けるべき必要な力は何なのか、個別の教育支援計画や指導計画との関連を考慮して、指導内容を選択・組織し、学習集団の実態に即した単元・題材指導計画を作成することが望まれる。

一引用・参考文献一

- 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説・自立活動編（幼稚園・小学部・中学部・高等部）』平成21年、海文堂出版
- 全国特別支援学級設置学校長協会、全国特別支援学校知的障害教育校長会編『障害のある子供のための国語（読むこと・書くこと）』平成25年、東洋館出版
- 鹿児島県総合教育センター『子供をよりよく理解するための国語、算数・数学チェックリスト（改訂版）』平成27年
- 鹿児島県総合教育センター研究紀要第120号『特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ』平成28年
- 鹿児島県総合教育センター『特別支援学校（知的障害）における各教科の具体的な内容の例（試案）』平成28年

（特別支援教育研修課）